

**「改定ローマ字のつづり方（答申）」を受けた今後の学校教育上の対応について、
以下のとおりお知らせします。**

事 務 連 絡
令和 7 年 8 月 20 日

各都道府県教育委員会指導事務主管課
各指定都市教育委員会指導事務主管課
各都道府県私立学校事務主管課
附属学校を置く各国立大学法人附属学校事務主管課
構造改革特区区域法第 12 条第 1 項の認定を受けた
各地方公共団体株式会社立学校事務主管課

御中

文部科学省初等中等教育局教育課程課
文 化 庁 国 語 課

「改定ローマ字のつづり方（答申）」を受けた
今後の学校教育上の対応について

令和 7 年 8 月 20 日に、文化審議会から「改定ローマ字のつづり方」が答申されました。本答申を踏まえて、「ローマ字のつづり方（昭和 29 年内閣告示第 1 号）」の改定（以下、「内閣告示改定」という。）が年内を目途に行われる予定です。

現行の「小学校学習指導要領解説」では、国語科において、本内閣告示に基づいて、ローマ字で表記されたものを読むことなどが示されています。また、外国語活動・外国語科においては、国語科において日本語のローマ字表記が指導されていることを踏まえ、指導の工夫をすることなどが示されています。

今般の内閣告示改定では、社会で実際に用いられているつづり方に沿ったローマ字表記とする一方で、これまでのつづり方もその意義や用途を踏まえ併せて示される見込みです。そのため、現行学習指導要領及び解説に基づいて行われた指導は、その趣旨に照らして今般の改定内容と齟齬をきたすものではないため、当該内容の学習を既に終えた児童に対し、一律に再指導を行う必要は必ずしもありません。

また、本答申で示されているとおり、今般の内閣告示改定は、情報機器において広く用いられる、いわゆる「ローマ字入力」の方法に変更を求めるものではありません。このため、情報機器で文字を入力するなどの学習等においても、特段の対応が生じるものではないことを申し添えます。

なお、内閣告示改定に伴い、「小学校学習指導要領解説」のうち、国語科及び外国語活動・外国語科において「ローマ字のつづり方（昭和 29 年内閣告示第 1 号）」を引用している箇所（別紙）等については、内閣告示改定と同日に内容の更新を行う予定です。「小学校学習指導要領解説」の更新を行う際には、改めてその旨を周知いたします。

貴課におかれては、上記の内容を御了知いただくとともに、以下に掲げる表のとおり周知をお願いします。なお、学校に対する周知の方法については、学校における働き方改革の観点から、例えば他の案件とまとめて周知するなど、各学校の状況等を踏まえ御担当において御判断ください。

周知元	周知先
都道府県教育委員会指導事務主管課	所管の学校及び各学校を設置する域内の市（指定都市を除く）町村教育委員会指導事務主管課
指定都市教育委員会指導事務主管課	所管の学校
都道府県私立学校事務主管課	所轄の学校及び学校法人等
附属学校を置く国公立大学法人附属学校事務主管課	管下の附属学校
構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた地方公共団体株式会社立学校事務主管課	所轄の学校設置会社及び学校

【参考】

- 「改定ローマ字のつづり方（答申）」（第98回文化審議会の資料より）

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai_25/98/pdf/94258801_02.pdf



- 小学校学習指導要領解説【国語編】（※該当箇所はP. 79）

https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf



- 小学校学習指導要領解説【外国語活動・外国語編】（※該当箇所はP. 45、88、113）

https://www.mext.go.jp/content/20220614-mxt_kyoiku02-100002607_11.pdf



【本件連絡先】

- 「改定ローマ字のつづり方」について

文化庁国語課

03-6734-2840〔直通〕

- 国語科における学習指導について

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教育課程第三係

03-6734-3706〔直通〕

- 外国語活動・外国語科における学習指導について

文部科学省初等中等教育局教育課程課 外国語教育推進室

03-6734-3787〔直通〕

- 学校教育における情報機器への入力等に関する指導について

文部科学省初等中等教育局教育課程課 情報教育振興室

03-6734-2702〔直通〕

(別添)

○小学校学習指導要領解説 国語編

第3章 各学年の内容

第2節 第3学年及び第4学年の内容

1 〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

○話し言葉と書き言葉

ウ <中略>

ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことは、ローマ字での読み書きについて示したものである。ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットを見たり、コンピュータを使ったりする機会が増えるなど、ローマ字は児童の生活に身近なものになっていることなどを踏まえ、第3学年で指導するものとする。日常使われている簡単な単語とは、地名や人名などの固有名詞を含めた、児童が日常目にする簡単な単語のことである。

ローマ字の表記に当たっては、「ローマ字のつづり方」(昭和29年内閣告示)を踏まえることとなる。ここでは、「一般に国語を書き表す際には第1表に掲げたつづり方によるものと」し、「従来の慣例をにわかに改めがたい事情にある場合に限り、第2表に掲げたつづり方によっても差し支えない」とされている。第1表(いわゆる訓令式)による表記の指導に当たっては、日本語の音が子音と母音の組み合わせで成り立っていることを理解することが重要である。第2表(いわゆるヘボン式と日本式)による表記の指導に当たっては、例えば、パスポートに記載される氏名の表記など、外国の人たちとコミュニケーションをとる際に用いられることが多い表記の仕方を理解することが重要である。

○小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編

第1部 外国語活動

第2章 外国語活動の目標及び内容

第2節 英語

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成上の配慮事項

エ <中略>

また、第3学年の国語科において日本語のローマ字表記を学習することとなっているが、指導に当たっては、「ローマ字のつづり方」(昭和29年内閣告示)を踏まえることとなっている。ここでは、「一般に国語を書き表す際には第1表に掲げたつづり方によるものと」し、「従来の慣例をにわかに改めがたい事情がある場合に限り、第2表に掲げたつづり方によっても差し支えない」とされている。国語科においては、第1表(いわゆる訓令式)により、日本語の音が子音と母音の組み合わせで成り立っていることを理解すること、第2表(いわゆるヘボン式と日本式)により、例えばパスポートにおける氏名の記載など、外国の人たちとコミュニケーションをとる際に用いられることが多い表記の仕方を理解することが重視されている。このことを踏まえ、外国語活動においては、例えば、ヘボン式ローマ字で地名が表記されている観光地の看板等を掲示するなど、地名などは、できるだけ日本語の原音に近い音を英語を使用する人々に再現してもらうために、訓令式の si や ti ではなく、ヘボン式の shi や chi が使われていることを知らせることが考えられる。

第2部 外国語

第2章 外国語科の目標及び内容

第2節 英語

2 内容

〔第5学年及び第6学年〕

〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

イ 文字及び符号

(ア) <中略>

文字を指導する際には、小学校第3学年の国語科において日本語のローマ字表記が指導されていることを踏まえ、指導の工夫をすることが必要である。例えば、日本語のローマ字表記で用いられる文字については児童の学習状況を見ながら英語の文字との違いに気付かせながら指導したり、日本語のローマ字表記で用いられない文字については十分触れさせてから書くようにしたりするなどの工夫が考えられる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

オ 書くこと

(エ) <中略>

日本語のローマ字表記については、「ローマ字のつづり方」（昭和29年内閣告示）を踏まえて指導することとなっている。ここでは、「一般に国語を書き表す際には第1表に掲げたつづり方によるものと」し、「従来の慣例をにわかに改めがたい事情にある場合に限る、第2表に掲げたつづり方によっても差し支えない」とされている。第3学年の国語科においては、第1表（いわゆる訓令式）により、日本語の音が子音と母音の組み合わせで成り立っていることを理解すること、第2表（いわゆるヘボン式と日本式）により、例えばパスポートにおける氏名の記載など、外国の人たちとコミュニケーションを行う際に用いられることが多い表記の仕方を理解することが重視されている。このことを踏まえ、高学年の外国語科においては、国際的な共通語として英語を使用する観点から、できるだけ日本語の原音に近い音を英語を使用する人々に再現してもらうために、第2表に掲げた綴り方のうち、いわゆる「ヘボン式ローマ字」で表記することを指導する。